





ふりがな 氏名	やまざき ふくたろう	都道府県	長野県	
	山崎 福太郎			
所属/肩書	信州大学教育学部附属特別支援学校 / 教諭			
関心・活動のSDGs	 4 質の高い教育を みんなに	 8 働きがいも 経済成長も	 10 人や国の不平等 をなくそう	
私のESD活動	児童生徒が主体的に取り組む生活を今と将来にわたって実現することを目指す授業研究と実践			
活動の概要				
<p>本校は知的障害のある児童生徒対象の特別支援学校です。「自らの力をじゅうぶん発揮し、主体的に取り組む生活を今と将来にわたって実現する児童生徒の育成」を教育目標として、授業研究や実践を実施してきました。私が所属する高等部は「作業単元学習(製品を製作販売して資金を得る活動と、その資金を元に願いを実現する活動とを併せて展開する学習)」を教育課程の中心に据えて実践に取り組んでいます。作業単元学習は作業学習を中心に社会的自立に必要な事柄を総合的に学習するものであり、私たちは生徒が目当てや見通しをもって主体的・意欲的に活動に取り組めるように、生徒たちのその時期の生活から生まれた願いを大切に共有し、その願い実現に向けて作業に取り組んでいます。例えば、アラジン題材とした映画撮影をしたいと考えた生徒たちが「気球に乗って逃げるシーンを撮りたい」と願いをもち、その願いを実現するために製品を販売した資金で気球を借りて校庭で飛ばしました。また別の時期には、「本物の芸人さんと一緒に新喜劇をしたい」という願いをもち、製品を販売した資金で本格的な劇場の使用料と吉本興業の芸人「こてつ」さんの出演料を支払い、芸人さんと一緒にオリジナルの新喜劇を行いました。このような作業単元学習という形態で授業を行なっている学校は全国でも珍しく、公開研究発表会には全国各地から多くの方々から参観に来ていただいています。</p>				
私が考える教育の未来像				
<p>昨今の教育現場においては子ども達の実態の多様化、家庭環境の複雑化、予想不可能な社会になりうる世界情勢など課題は多くみられます。そんな中で私たち教員は日々、子ども達にとってよい授業とは何かを考えながら実践をしています。これからの世界を背負って活躍していくのは子ども達です。この子ども達がどんな力をつけて社会を生き抜いていくか、どんな大人になって社会を支えて動かしていくかといった、「未来を逞しく生き抜くための力」について考え、どうしたら身につけることができるのかと、教員だけでなく親や地域の人達などの大人が考えていくことにより、明るい未来の実現につながると考えます。</p>				
私の強み、活かせる経験やスキル				
<p>大学生時代に日本代表としてソチパラリンピック(アルペンスキー)に出場しました。その経験の中で世界各国の人達、障害のある人達と交流させていただいた経験から、比較的広い価値観で様々な人達と関わることができると感じています。現在は高等部研究主任として、高等部の授業のあり方について部の教員とともに考えています。同時に、全校の教員にも自分の考えを伝え、多くの意見をもらい、集約して再提案を重ねて合意形成を行い、研究テーマや研究授業を作成、実施しています。この見通しをもって計画すること、自分の意見を相手に伝え、意見を踏まえて考えをまとめていくことはESD活動に活かせる経験だと考えます。</p>				